

### ■堅陣突破の重戦車

昭和14年(1939年)5月に勃発したノモンハン事件は、大日本帝国陸軍に大きな影響を及ぼした。特に保有火力においては、ソ連軍に対し著しく劣っていたことを痛感するのであった。このため翌昭和15年に出された戦備計画では、本格的な対ソ戦に備えて質・量共に早急の戦力増強整備が必要と検討された。

昭和16年3月に軍内部の大陸要塞研究委員会が作成した文書に「要塞突破の超重戦車」との記述がある。特に満州東部の国境地帯はウラジオストックをはじめとする要塞地帯が連なり、当時はこの攻略が重要視されていた。記載された「超重戦車」とは、その大きさや重さから野戦での機動運用とは考えにくく、まさしく要塞などの堅陣突破を目論んで企図された。と考えるのが妥当であろう。

### ■開発経過

昭和16年(1941年)4月14日に、陸軍技術本部(以下:技本)より三菱重工業東京機器製作所に対し「特殊車両」の試作が内示された。三菱からは第2工作部長の武藤英二を主任として9名の技師が出頭したが、その際には機密保持について特に注意があり、開発当初からその秘匿性がうかがわれた。

技本では第5部長の原乙未生少将、第2科長村田大佐らが全般を担当し、上西技師、並河大尉、咲山技師が部分担当となった。

○昭和18年7月に三菱重工業東京機器製作所が作成した実車説明書より、添付された側面図。重量(全装備)150tとの記載がある。

当日の午後、早速三菱の会議室に関係者が集められ、注意事項として以下の事柄が申し渡された。

- この試作は陸軍の最高の超特秘である。
- 名前は特殊車両と称す。
- 部分的組み立てを東京機器製作所で行い、全組み立てを相模造兵廠で行う。
- 試験は東北某地にて行う予定、目下工場建設中。
- 完成は本年7月末日。
- 図面(保管)には必ず鍵をかけ、部品組立工場の仕切りは必ず天井までの囲いをする事。

翌15日には、陸軍から工事番号R69901と記された工事命令書と共に最初の図面92枚が渡された。三菱車内での仮名称を「ミト」車(「三菱の特殊車両」の略)として、16日から正式に計画がスタート。製作を前に材料計画/部品計画と見積/印刷/伝票/統計などそれぞれの担当作業員の任命があり、ここでも機密保持に注意が払われた。

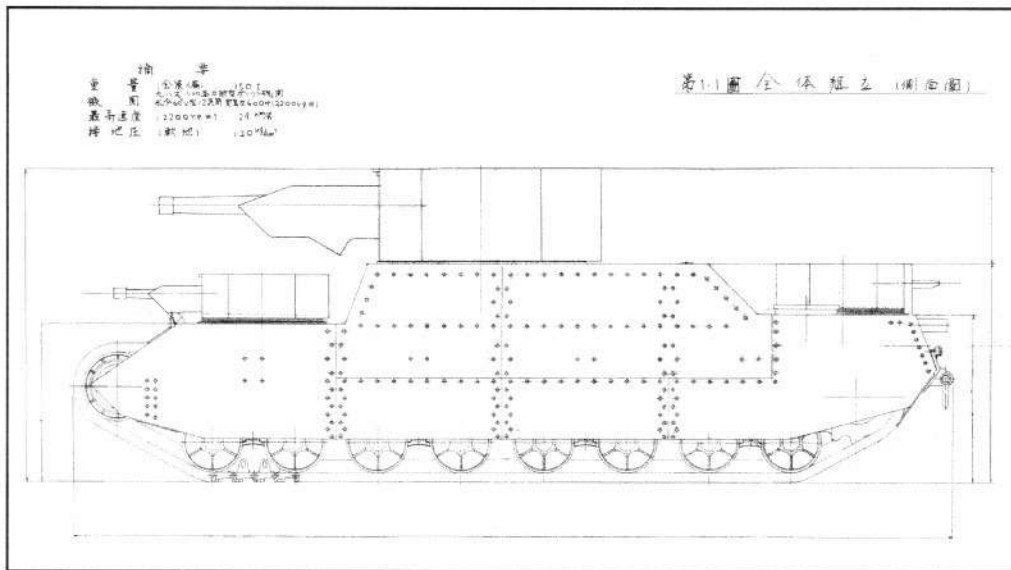
部品加工は外注に依存する部分が多くなると見込まれたことから、外注先に関する情報を前もって技本に連絡することとされた。

エンジンは航空機用の九八式800馬力(九五式戦闘機に搭載したものとほぼ同じ)2基を搭載。プレーキおよびクラッチの操作は油圧式としてサーボモーターは操向装置用のものと共通に、また人力にても操作出来るように各種操作レバーを設けた。通常、試作車体はまず軟鋼板で作るものだが、官給品としての防弾鋼板はこの次点ですでに海軍に注文済とされていた。

図面は製作に伴って陸軍側から順次受け取った。5月2日には官給品としてエンジン4基を受領し、5月13日の打ち合わせで12月までの全体工程表が仮決定された。当初の計画では試作車の完成納期を7月末とされていたが、陸軍から支給される図面の完成時期も不明瞭なため、加工など作業工程を考えればやむを得ないことであった。

5月17日、相模造兵廠から「相庶秘635号・相監秘636号通牒」として、陸軍技師小山賢一が「オイ」車専任管理官として任命される旨の通達書面が発行される。この書類によって本車の陸軍側秘匿名称が判る。

5月26日、三菱は陸軍側に対して希望完成納期を昭和17年1月31日へと変更して欲しいとの要請を申し入れた。





午後8時から開始された供覧試験は順調におこなわれ、特に日本における戦車開発の重鎮でもある原乙未生少将は、油圧操縦が機能良好であることに満足したという。試験後には本部長から三菱の作業員一同に対しねぎらいの言葉があり、江田工場長が社員を代表して礼を述べた。

### ■砲塔製作の問題

昭和17年5月14日になってようやく砲塔製作の内示が出された。28日には砲塔図面(主、副砲塔および銃塔)90枚を受領、30日に社内で砲塔製作のための研究会が開かれた。そこでいくつかの問題点が話し合われた。大きな点として、

- 主砲塔裏面輪削(ターレットリングの切削)作業は所内では不可能だが、横浜船渠なら可能な見込。ただし防謀上の問題があるので官側の斡旋を願うこと。
- 主砲塔軸受け環は特殊鋳鋼に変更する旨を申し出ること。
- 鋼板の歪みとりは問題となる見込なので、その時は斡旋願う旨をあらかじめ申し出ること。
- 大型プレーナーおよびボール盤による工程は製造上の遅延要因となりうる。作業量はチ八車の砲塔12台分に相当する事をあらかじめ申し出ること。
- 納期は材料官給後4か月半。作業内容は以下の通り。  
計画=半月。  
外板=3ヶ月半  
(歪みとり/溶接/機械加工/仕上げ)  
軸受け=2ヶ月半(鋳造/機械加工)  
銃・砲眼等=2ヶ月半(鋳造/機械加工)  
組立=半月

以上のように砲塔製作には多くの難題があり、前途は楽観できない状況であった。これら問題点は6月4日に、技本に向け「砲塔引き受けに関する希望事項」(ミト第170号)として提出した。この中で、7月15日に予定される供覧試験では木製砲塔(モックアップ)を製作し搭載することを提案している。

6月10日には砲塔製作工事命令書(R79901)が発行された。「完成の上はR69901にて製作のミト車に搭載するものとす」という内容であった。

しかし、ここに至り材料入手に関する問題が浮かび上がってきた。大東亜戦争が始まってまだ間もないこの時期から既に、各種資源の不足が目立ち始めて来たのである。経済的な基礎体力に乏しい当時の我が国の実態が垣間見えた。

6月22日には三菱側から技本の並河少佐への電話連絡にて、砲塔用材料の入手に関して相談がなされている。24日には並河少佐、咲山少佐らが三菱に來所し、出来上がった木製砲塔を視察した。

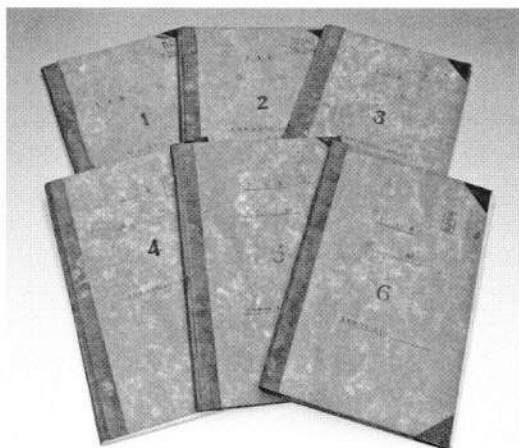
砲塔製作が進捗しないまま、さらなる困難な状況が持ち上がってきた。供覧試験後の7月28日、相模造兵廠における担当者である中村大佐からの意見として「整備車(量産戦車)用の物さえ足りないのに、オイ車に回せる分はなおさら無い。技本より正式に依頼を受けるには受けたが、今のところ処置なし。」と伝えられたのであった。

これ以降11月中旬に至るまで、材料入手と納期について三菱と技本とで協議がおこなわれたが、結局のところ砲塔は完成しないままとなる。

### ■相模造兵廠への輸送

供覧試験の後、オイ車は三菱において、冷却その他の発動機周辺機器の修正や車体に関する調整作業を行っていた。昭和18年1月18日に相模造兵廠長から「ミト車は相造へ引き取る事となりたるに付き、手配されたし。」という命令が出され、21日に相模造兵廠への陸路での運搬方法を研究するように求められた。

三菱側では23日より池神部長以下、関係者が集まり輸送方法の研究会が開かれた。2月1日に造兵廠側から三菱に対し分解輸送を希望する旨が伝えられるが、現状は受入態勢が整っていないため、分解作業は4月末より開始せよとの指示が併せて出された。実際の作業は5月26日から始まり相模造兵廠から20名、三菱から10名の作業員が担当し、5月31日までには必要な分解が完了する。



○ミト車日誌:三菱設計陣による業務日誌。製作内示のあった昭和16年4月16日より走行試験終了後の18年8月10日まで記載がある。

分解された部品は随時相模造兵廠に運搬された。6月7日には一番大きな部品である車箱(車体本体)が、重砲兵学校より借り受けた30tトレーラーに乗せられ三菱の工場より運び出された。車体は木枠で周囲を覆い、その上にシートをかけて戦車とわからないように偽装された。牽引には13トン牽引車を使用し、補助として九七式中戦車とロケ車が随伴した。分解はされても車体本体は大きく、当時の道路事情もあって東京市蒲田の東京機器製作所より神奈川県高座郡相模原町の相模造兵廠(共に当時)までの最短ルートは使えない。結果、五反田一目黒一渋谷を経て、新宿から甲州街道を下って八王子から南下するという大回りでの輸送となり、3日をかけて6月9日に相模造兵廠に搬入された。相模造兵廠では6月28日から再組み立て作業が開始され、7月21日作業が完了した。この間、要した日数は24日であった。

### ■相模造兵廠での試験

組立が終了した翌日となる7月22日、履帯をかけない状態での台上運転が行われた。そして8月1日には相模造兵廠内にて供覧運行試験がおこなわれた。

戦車を担当している第4陸軍研究所から原乙未生中将以下、佐官級の将校、陸軍省は野口少佐と大田少佐、相模造兵廠からは佐藤大佐以下、主な担当将校、兵器行政本部は島津少佐が出席するという力の入ったものであった。

試験は第4工場出口のある北側道路から開始された。10時30分にギアを第1速に入れて発進。右折して200メートルほど走ったところで停止した際、スターターモーターと左後方の第7転輪軸受に損傷が見られた。また廠内道路の幅が狭く、路肩部分のコンクリート仕上げが不十分だったため、履帯により路面が割れ2～3cmの沈下が発生した。このため予定を変更して、未舗装地の路外コースを走行することとなった。新設工場の予定地で相当広い場所であったが、赤土が混入する黒土で軟弱な上に、防空退避所や資材置き場も兼ねており十分に走れる場所ではなかった。

変速は1速、2速、3速とも運転可能であったが、地面が軟弱なため抵抗が大きくなりスピードを上げられず変速が困難だった。このような状況でエンジン出力の過不足は判断材料が得られなかった。発進はどのギアからでも可能だったが、エンジンからクラッチに至るまでの構造部品が多くまた大型であるために、変速に際しアクセルを緩めても回転が落ちずにギア鳴りを起こして、変速困難な状態が発生した。

12時30分に試験は終了したが、昼食後に車庫入れをおこなった際に右側第7転輪が破損脱落し、起動輪も外板のまくれによって破損した。

### ■試験終了後の対処

試験終了後、直ちに今後の処置と破損に対する考察がなされ、破断の原因は荷重分布と軸受けの強度不足と結論付けられた。現状でも重量は96tあり、砲塔を搭載した完成時の全備重量は150tにもなる。現設計では軸受け容量が不足し、大型軸受けに改める必要ありということであった。ただし、現状では大型軸受けを入れるスペースが無いため、サスペンションアームと転輪とを全面的に再設計することになる。しかもこれは大作業になるためその実施時期については十分な検討が必要であるとの考察がなされた。

8月3日より転輪の分解作業を始め、8日には完了。10日に第4陸軍研究所、相模造兵廠、三菱より関係者が集まって破損状況の視察会がおこなわれた。その

記録によれば転輪部分の軸受け総数64個のうち、半数の32個が破損。理由として過負荷が原因でもあるが、軸受けベアリングが「3流」会社での製造から精度不良によるものとしている。

善後処置として、計算上さらに丈夫な軸受けを用いる案を作成し、人工並びに材料所要量を報告する事。また、起動輪の代品を至急作ることにしたが、全体的な処置を含んだ上で決定するため工事を一時待つこととされた。

4研の下野中佐からの指示として、経過報告書と最終報告書の提出が求められた。そのほか連絡事項として、車体外面に取り付ける防弾鋼板は異にてほとんど完成している。関係者一同にて研究会を開催し知識意見の交換をおこないたい旨が伝えられた。

### ■その後

記録書類はこの8月10日付の記載で終わる。計画当初の状況から大きく変化していることを考慮すると、本車の試作開発は時代に合わなくなっていたと見るべきであろう。対ソ戦の秘密兵器として計画されたものの、太平洋を舞台とする主敵は米英の連合軍であり、艦船と航空機が主役となりつつあった。その状況において、成功の見込みが不確定な本計画に大量の資材を使用する意味が失われていったのが事実であろう。とはいえ、せいぜい20トンクラスの戦車を製造したに過ぎない我が国の技術陣が、150トンの超重戦車開発に挑んだということは評価に値するといえるだろう。

### ●「オイ」試作行程

試作下命	昭和16. 4.14
組立完了	17. 2.28
台上試運転	3.16
砲塔製作下命	3.26
地上初運転	4.13
供覧運転	7.15
相模造兵廠へ引取指示	18. 1.13
(これより輸送方法研究)	
解体輸送に決定	2. 1
輸送に向けた解体作業	5.26～6. 7
車両輸送	6. 7～6. 9
相模造兵廠での再組立	6.28～7.21
台上運転	7.22
地上運転	7.29
走行試験	8. 1

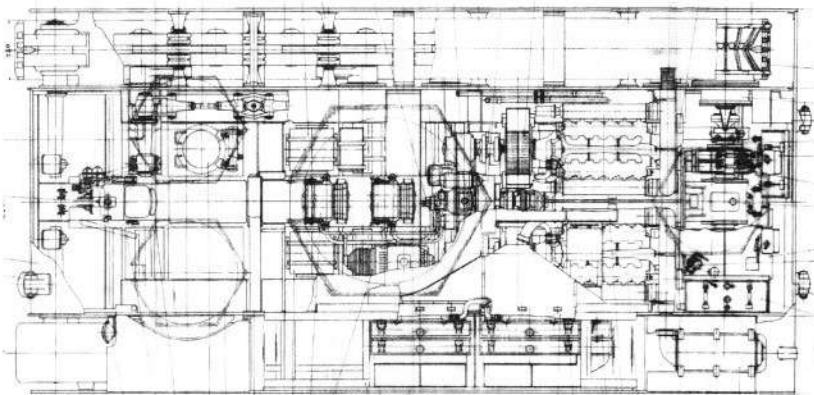
組立完了迄の工数	149,110時間
所要素材	約200 t
図面枚数	約700枚
(官図の手入・修正ならびに新図作製に12,000時間)	

※三菱重工業東京機器製作所作成  
「工事経過概要」より抜粋

### ●車両諸元

重量 (予想) :	150,000 kg
全長 :	10.12 m
全幅 :	4.84 m
高さ (砲塔を除く) :	2.53 m
発動機 :	水冷12気筒60° V型ガソリン機関
最大出力 :	600 HP / 2200 rpm
装甲 :	30～35 mm
標準速度 :	18.7 km/h
最高速度 :	29.0 km/h
登坂能力 :	1/2
搭載燃料容量 :	400 ℓ

※三菱重工業東京機器製作所作成  
「ミト車試作経過報告」より抜粋



○全体図より『水平断面図』(構成部品を指し示す引出線はそのまま)

## 作る前にお読みください

- この製品は組み立てモデルです。あらかじめ本説明書の全行程に目を通し、組立行程ごとにイラストを見ながら部品の取り付け位置を事前に確認して組み立て作業を進めてください。
- 本製品には接着剤と塗料は付属していません。プラスチックモデル専用の接着剤と塗料を別途お買い求めください。
- 組み立てにはカッターナイフや模型用ニッパー、ピンセット、ピンバイス(ドリル刃1.6mm)をご用意ください。
- 各部の塗装はGSIクレオス・Mr.カラーの番号を□内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカーやタミヤカラーを使用する場合は、塗装とマーキングページの「カラーナンバー対応表」を参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Check the position of the installation before installing parts following the illustration. Cement and paints are not included in the kit. Side cutters, modeling knife and tweezers pin vise with 1.6mm bitz, are also required for assembly. Please carefully use tweezers for the installation of small parts. The boxed numbers in each illustration refer to the number of "Mr.COLOR" from GSI Creos. Please also check the color reference on the Painting & Marking page.

## ▲ 注意 ちゅうい

本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。

1. 部品を取り出した後のビニール袋は放置しないでください。子供が頭から被ったり飲み込むと窒息の恐れがあります。
2. 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは部品の入っていたビニール袋と共に「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従って処分してください。
3. 突っている部品があります。お子様の手の届く所に放置しないでください。他の用途には絶対に使わないでください。
4. 特に小さなお子様がいる家庭では部品や部品切り取り後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子さまが側にいる、もしくは出入りする環境での作業や放置はおやめください。
5. 組み立ての際、ニッパー・ナイフ等を不用意に取り扱うと刃先で怪我をする恐れがあります。注意してください。
6. 接着剤、塗料を使用する場合は下記に注意してください。
  - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。
  - 引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。
  - 接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。
7. 工具・接着剤・塗料等を使用する前には、それぞれの説明書に記載の注意事項をよく読み、正しく使用してください。

## ▲ CAUTION MAKE SURE TO READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBLING.

**THIS IS NOT A TOY!** This model kit is suitable for age 10 to adult. When assembled by children aged 14 or younger, it is recommended that an adult, who has read the instructions, supervise the process.

1. This is an unassembled kit. Read the instructions before assembling. 2. Tear up and discard the plastic bags containing kit parts as children may accidentally hurt themselves by swallowing or suffocate by putting the bags over their head. 3. After preparing the parts by cutting, please dispose of the waste properly. 4. Don't play with the parts because some parts have sharp points. Exercise caution and care when assembled with infants in nearby vicinity. 5. Keep all parts out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouth, or pull plastic bags over their head (risk of suffocation). 6. Assembly involves the use of tools including knives. Extra care should be taken to avoid personal injury. 7. Take the following precautions when using adhesives and / or paints: Don't use in a closed room to avoid poisoning / intoxication. Don't use near fire (risk of flammability). Avoid contact with either your eyes or mouth. In case of accidental contact, rinse with large amounts of water and consult a doctor. 8. Read and follow the instructions supplied for the tools, the cement and the paints when used for assembly.

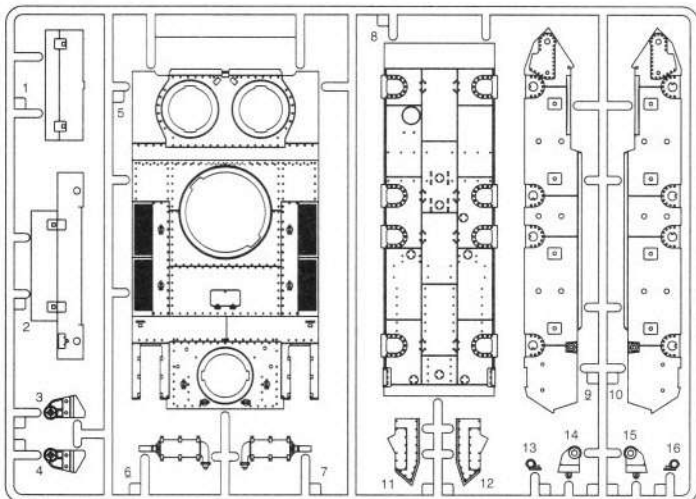
## パーツリスト

パーツを切り離す前に下の図と各ランナーを見比べ、パーツの不足や破損がないかを確認してください。

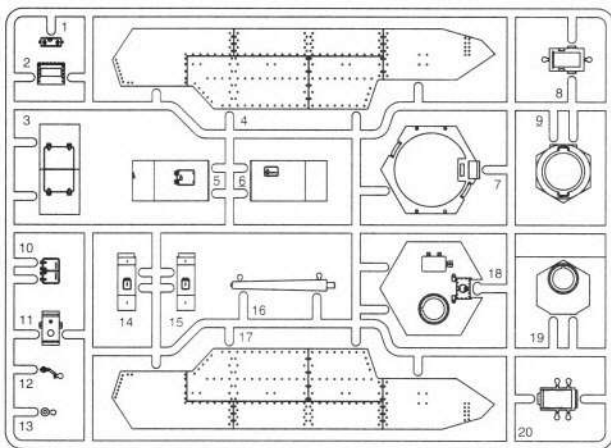
部のパーツは使用しません。

Parts not for use.  
Nicht verwenden  
Non utilisés

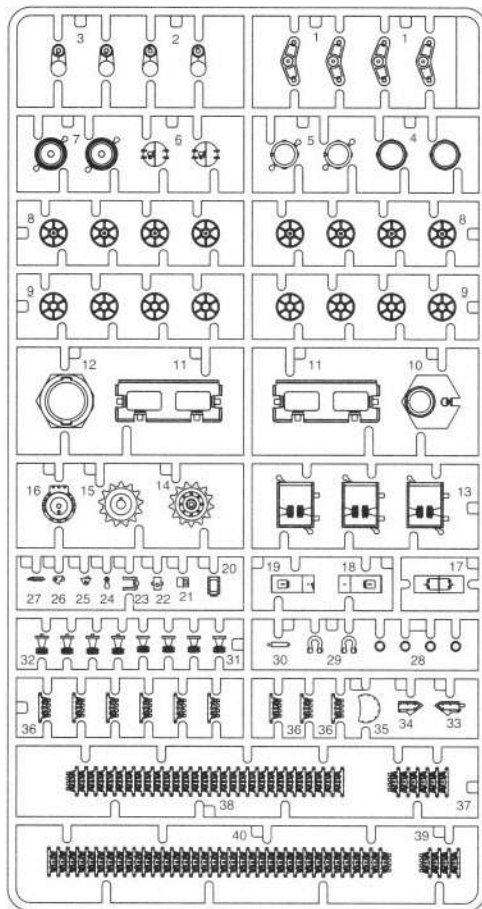
### A ランナー Tree



### B ランナー Tree



### C ランナー Tree x2



デカール  
Decal



※製造には万全の注意を払っておりますが、万が一製造上の不良部品が内包した際はご購入月日とご購入店様名をお書き添えの上、不良部品のみを郵便にてお送りください。(製品すべてをお送りいただく必要はございません) 送料分の切手と代替部品をお送りします。 〒441-3301 愛知県豊橋市老津町時場53-2 (有) ファインモールド

↑ ↓  
 接着します  
 Glue  
 Kleben  
 Coller

↑ ↓  
 または  
 or  
 oder  
 ou

✗  
 接着しません  
 Don't glue  
 Nicht kleben  
 Ne pas coller

✗  
 または  
 or  
 oder  
 ou

✗  
 切り取ります  
 Remove  
 Entfernen  
 Enlever

✗  
 切り取ります  
 Remove  
 Entfernen  
 Enlever

✗  
 切り取ります  
 Remove  
 Entfernen  
 Enlever

⊕ ⊖  
 どちらか選びます  
 Optional  
 Wahlweise  
 Facultatif

⊕ ⊖  
 どちらか選びます  
 Optional  
 Wahlweise  
 Facultatif

⊕ ⊖  
 どちらか選びます  
 Optional  
 Wahlweise  
 Facultatif

0.0  
 穴を開けます  
 Make a hole  
 Loch bohren  
 Faire un trou

0.0  
 穴を開けます  
 Make a hole  
 Loch bohren  
 Faire un trou

⚠  
 注意します  
 Attention  
 Aufmerksamkeits  
 Faire attention

✗  
 注意します  
 Attention  
 Aufmerksamkeits  
 Faire attention

✗  
 ビンセットを用いて部品を取り付けます  
 Use the tweezers  
 Die Pinzette wird benutzt  
 La pince à épiler est utilisée

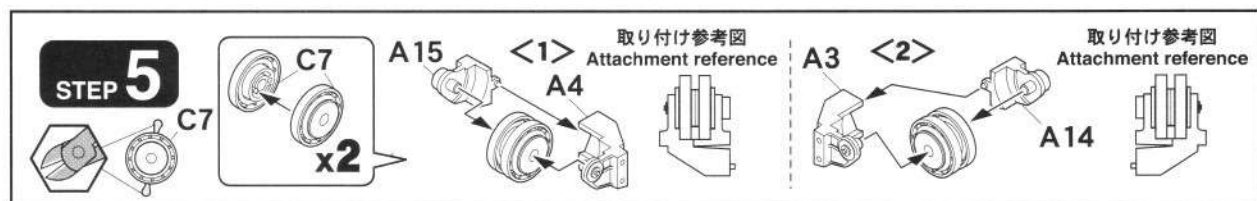
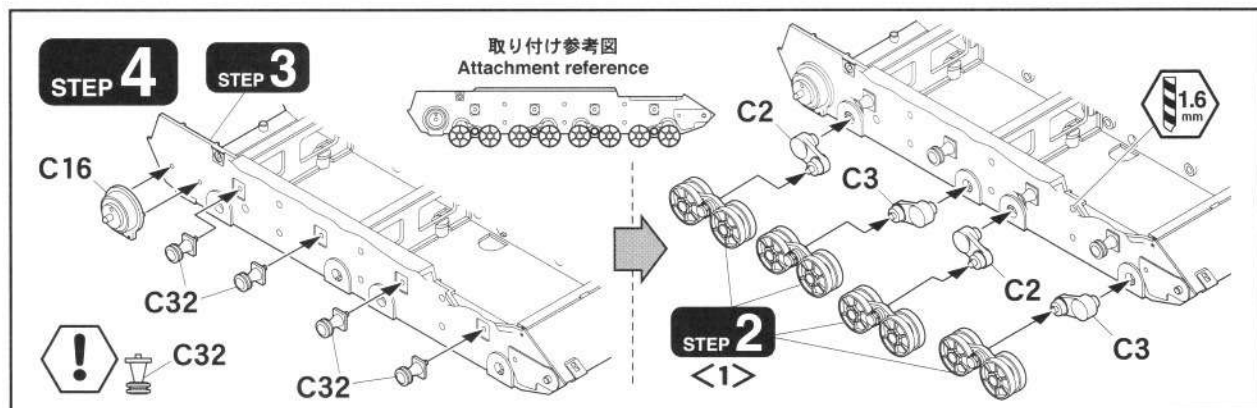
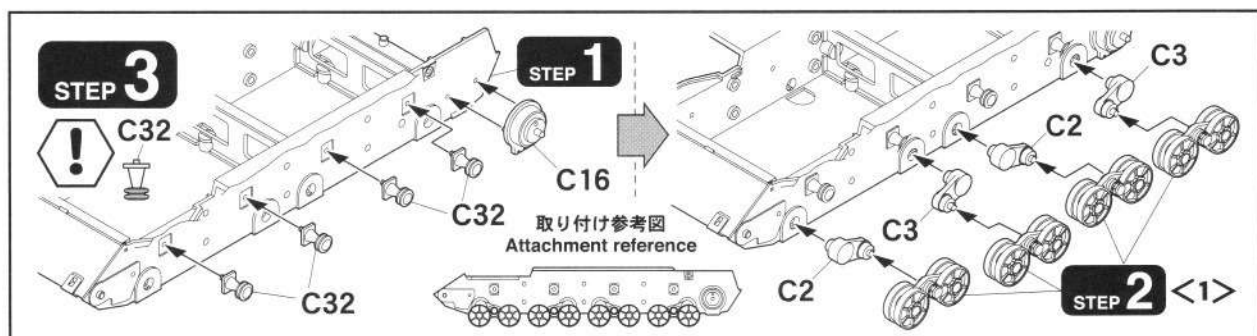
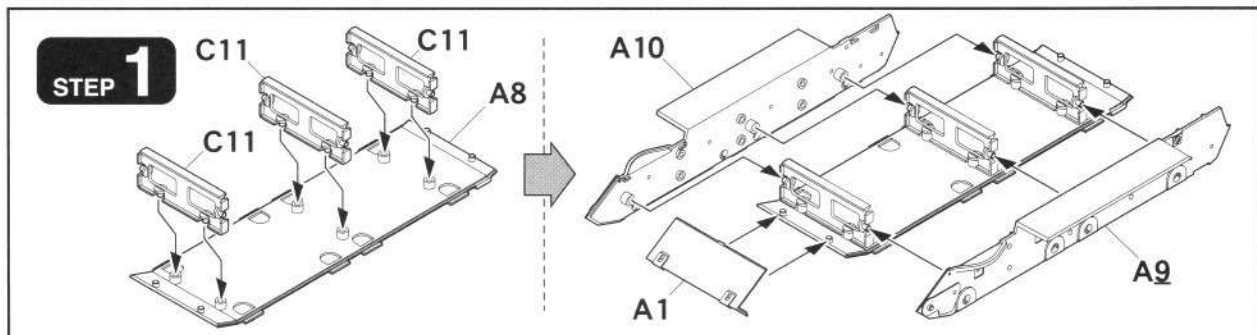
✗  
 瞬間接着剤を使用します  
 Use Cyanoacrylate (Superglue)  
 Sekundenkleber  
 Colle rapide

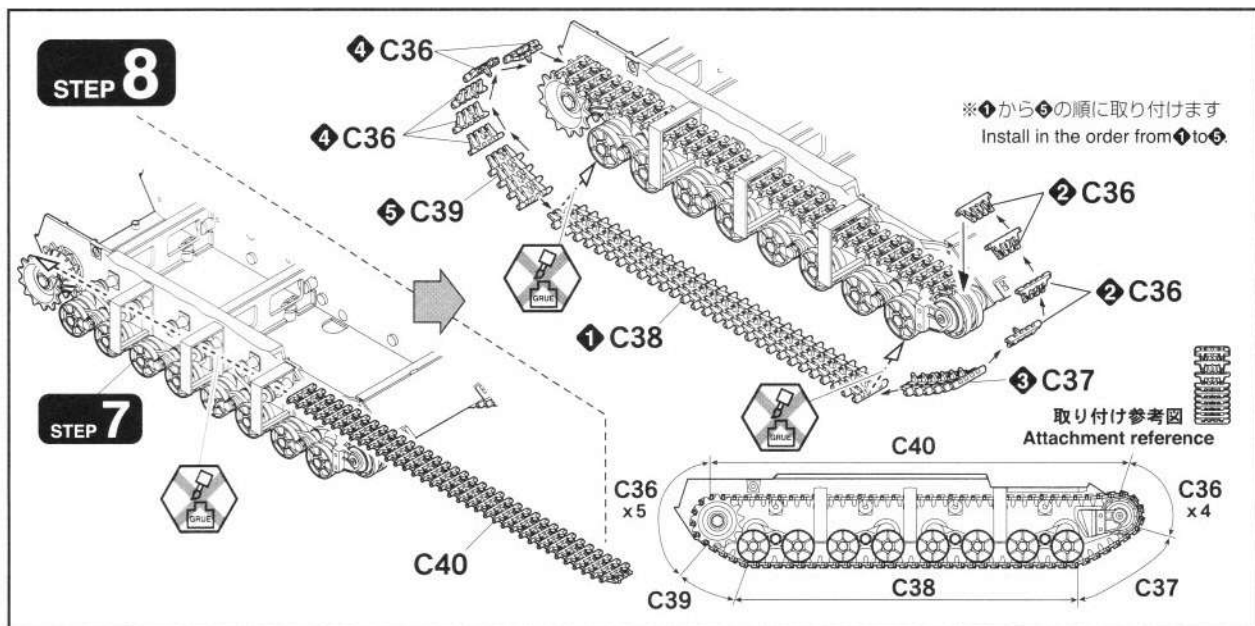
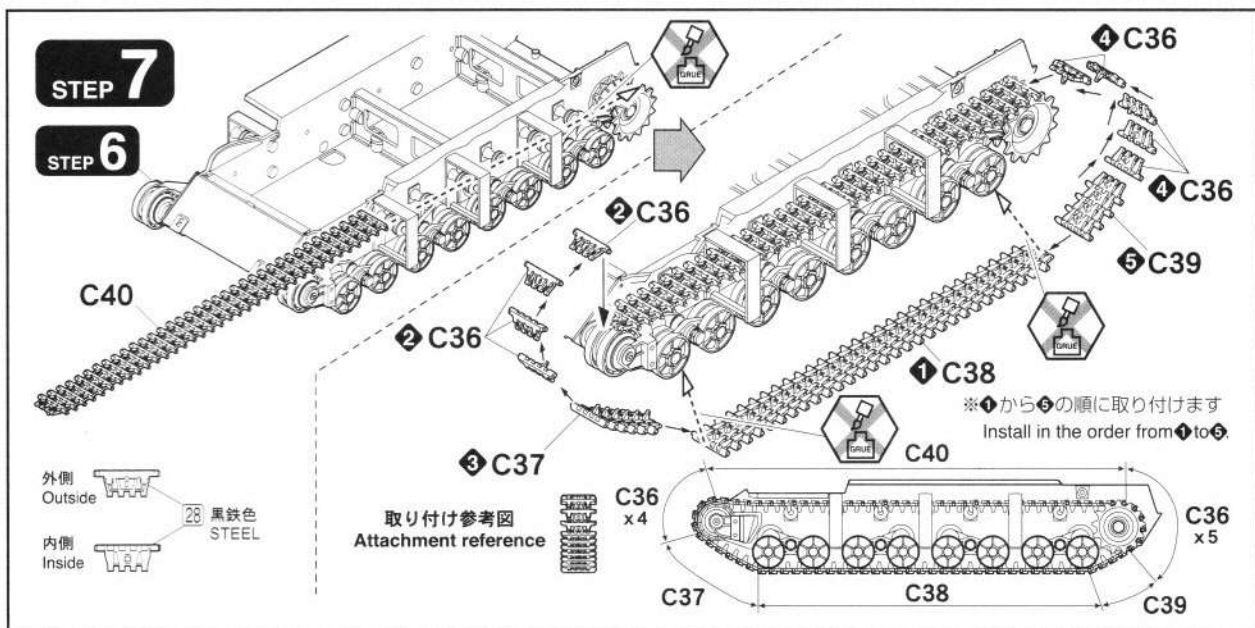
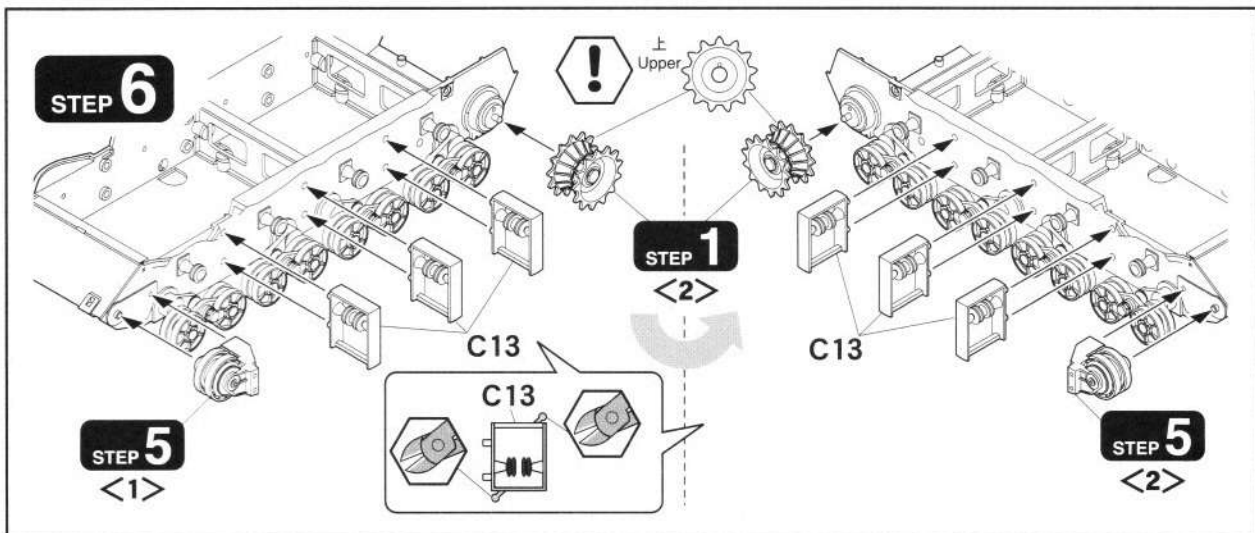
✗  
 瞬間接着剤を使用します  
 Use Cyanoacrylate (Superglue)  
 Sekundenkleber  
 Colle rapide

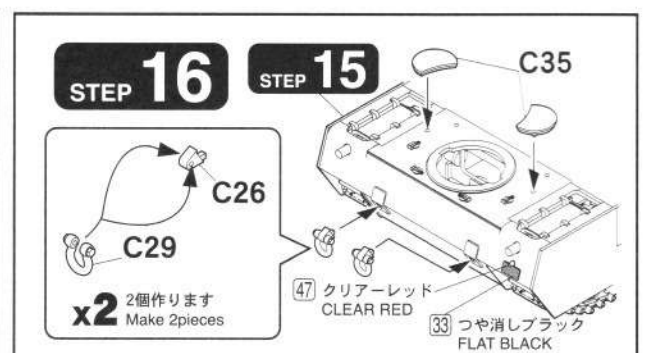
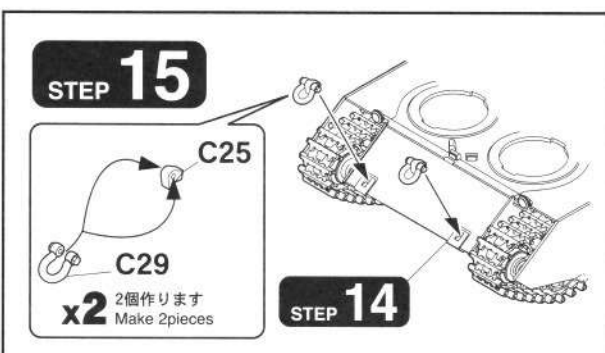
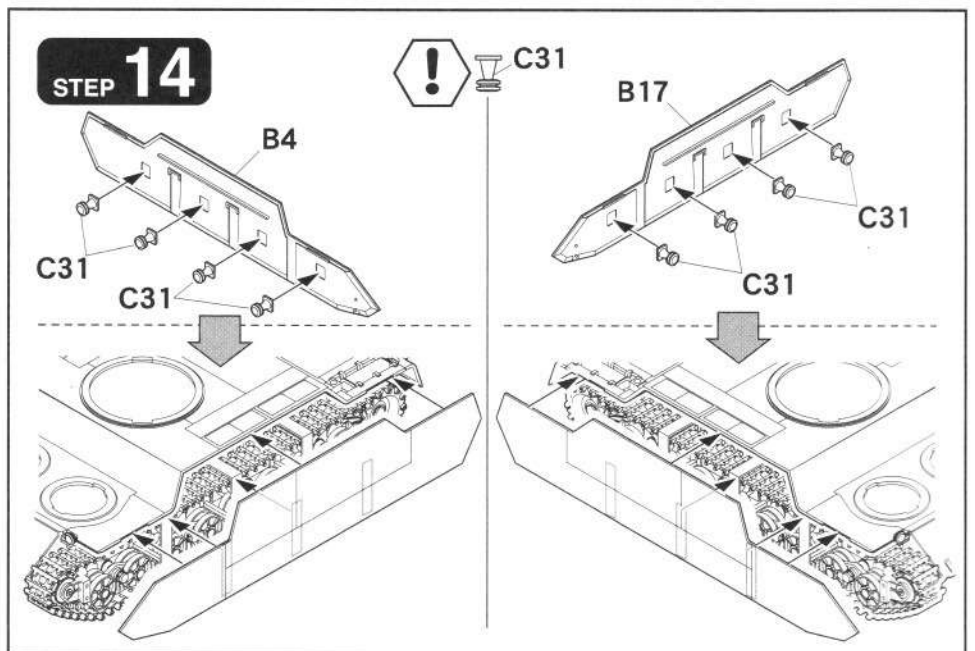
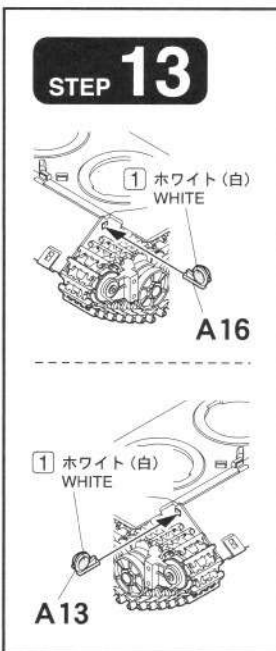
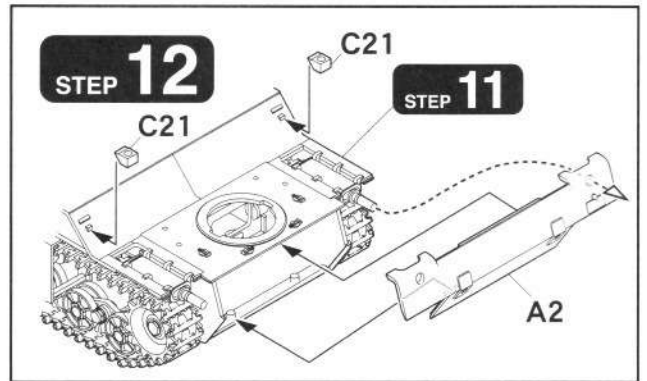
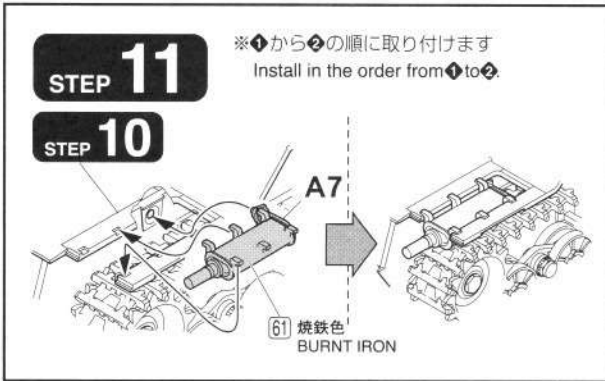
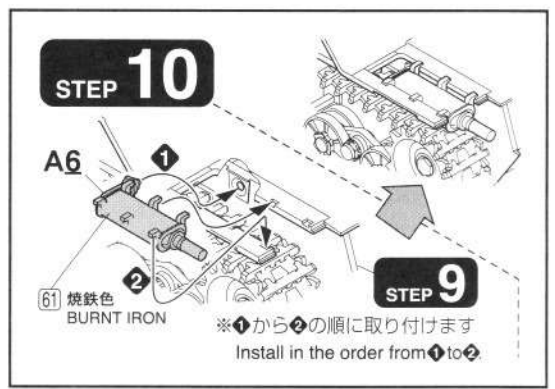
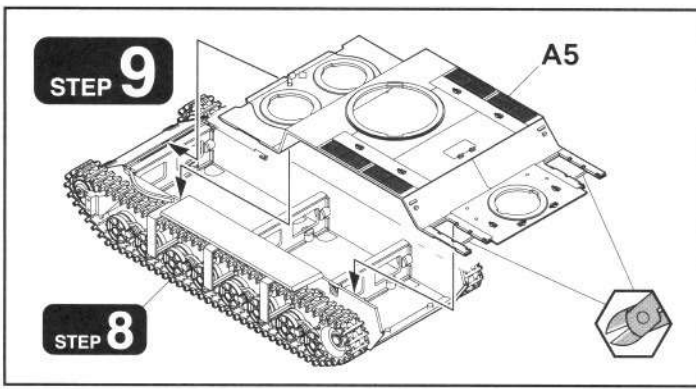
✗  
 瞬間接着剤を使用します  
 Use Cyanoacrylate (Superglue)  
 Sekundenkleber  
 Colle rapide

✗  
 〇数字で指示した水転写デカールを貼ります  
 Number of decal to soak and apply  
 Abziehbild in Wasser einweichen und anbringen  
 Mouiller et appliquer les décalcomanies

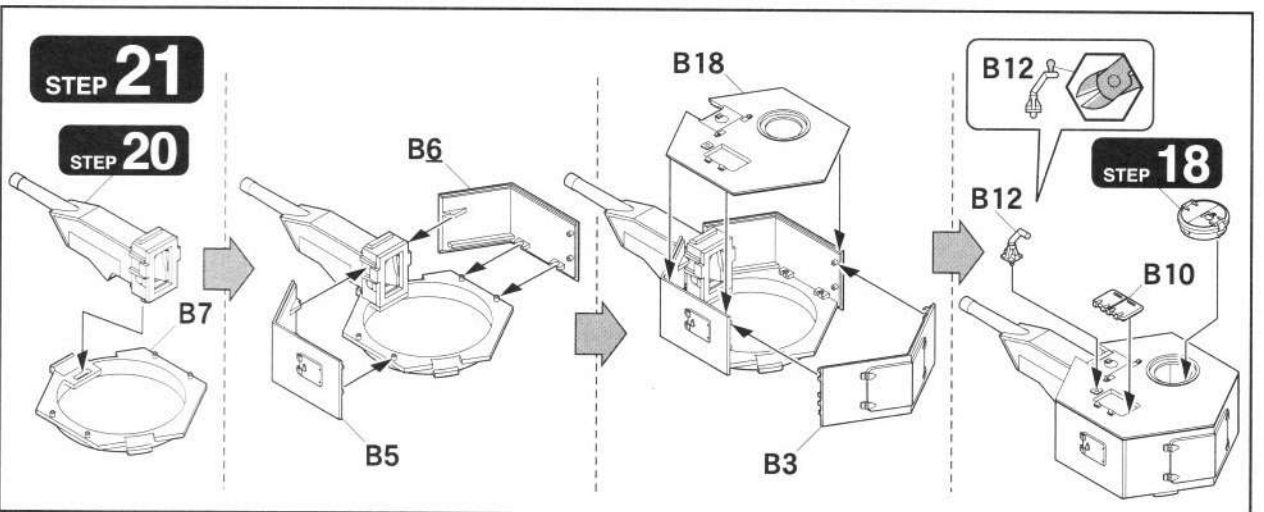
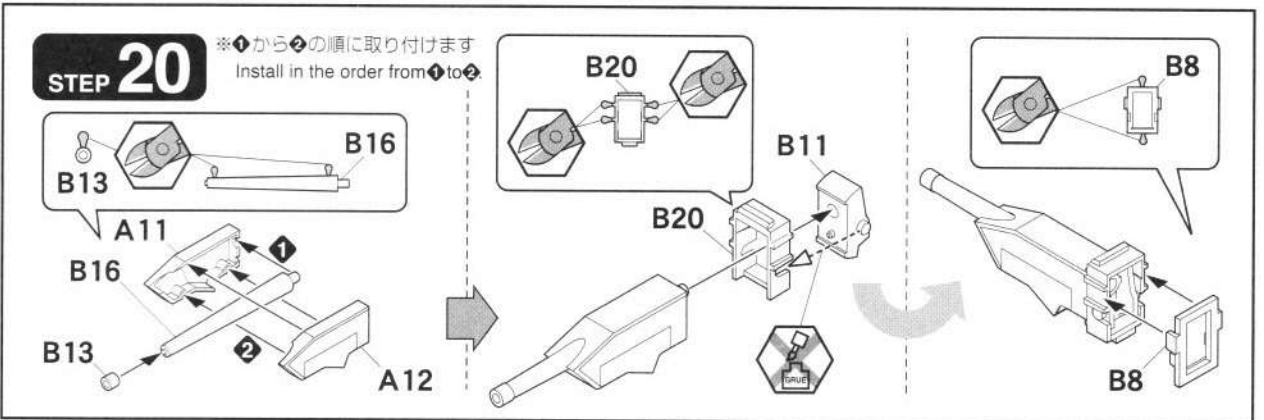
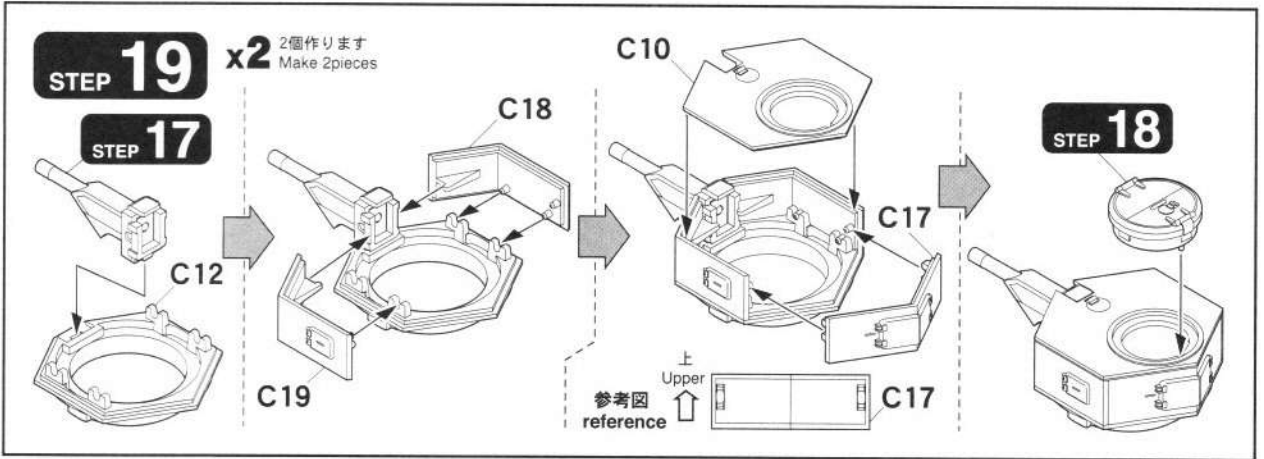
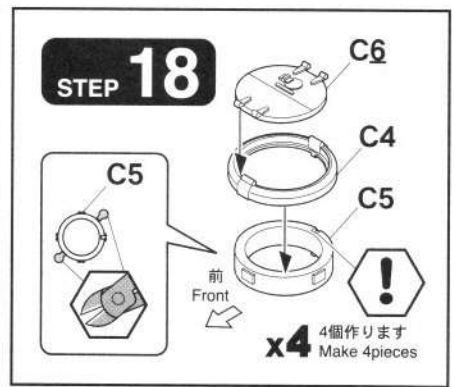
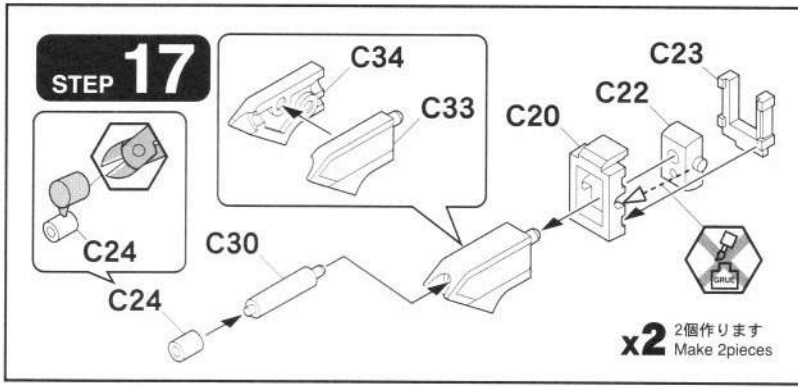
組立図中で塗装指示の無いものは「塗装とマーキング」ページで説明する車体色で塗装します。 Paint all parts body color except other color is specified.



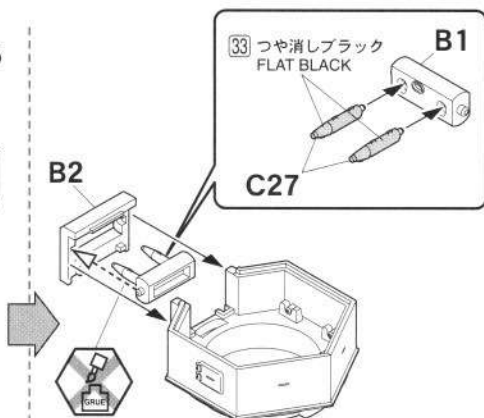
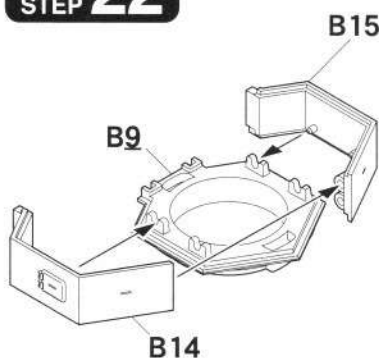








## STEP 22



## STEP 18



## STEP 23

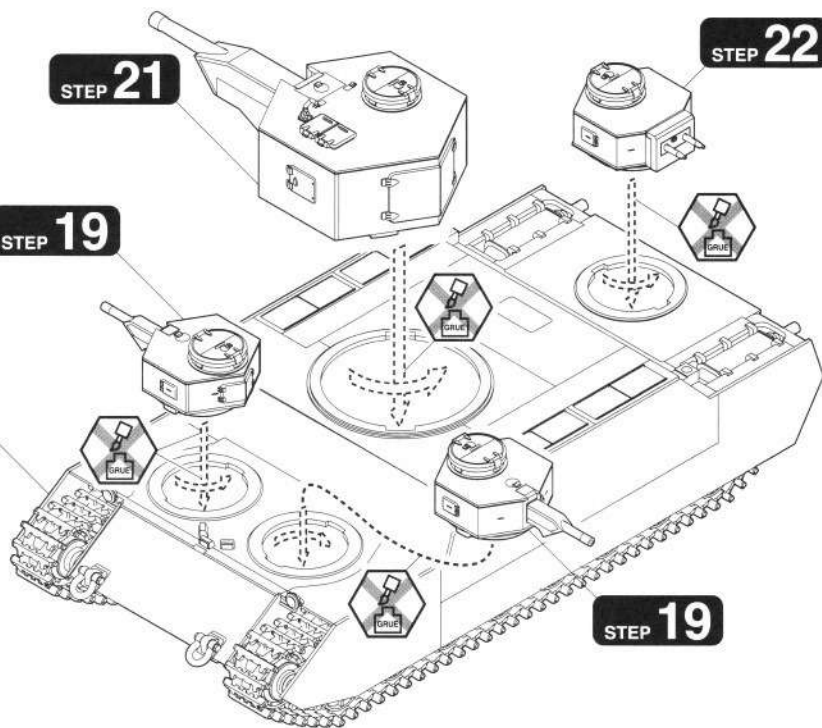
### STEP 21

### STEP 22

### STEP 19

### STEP 16

### STEP 19



### ■ 部品を破損・紛失された際は

紛失・破損などにより部品を請求される方はランナー（枠）単位で有償にてお分けいたします。下記の部品請求カード（コピー可）の必要ランナー名を○で囲みます。代金（消費税・送料込）を右記お支払い方法からお選びいただき、当社アフターサービス係（宛先は右下記載）までお申し込みください。いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限らせていただきます。製品はその仕様もしくは価格を予告無く変更することがございます。

### ■ ご注文とお支払い方法

#### ● 「定額為替」「現金書留」「銀行振込」にてご送金の場合

左下欄の部品請求カード（コピー可）の必要ランナー名を○で囲み、お名前・ご住所・電話番号を書き添えたメモを同封いただき、定額為替、現金書留の場合は共に郵送してください。郵便振替または銀行振込にてお支払いの場合は、部品請求カードとお振込（予定）日・お振込人名を別途郵送ください。

郵便振替の場合は払込用紙の通信欄に「製品番号、品名、ランナー名（部品枠）、数量」をご記入ください。ご入金を確認でき次第発送いたします。為替手数料あるいは振込手数料、送料はお客様にてご負担ください。切手での送金はお受けできません。ご了承ください。

#### ● 代金引換（到着時にお支払い）にてご注文の場合

部品請求カード記載のパーツ代金に代引き手数料300円を加算した金額がお支払いの総額となります。ご希望の製品番号と製品名・部品番号とお届け先をファックスまたはEメールなどでお知らせください。ご注文時にいただいたお客様の個人情報は当該商品の発送および発送記録確認以外の目的には用いませぬ事をお約束いたします。

■郵便振替口座:  
00840-2-21475  
加入者名:  
(有)ファインモールド

■銀行振込口座:  
三菱東京UFJ銀行 豊橋支店  
普通 5369261  
(有)ファインモールド

### ■ 部品請求ならびに製品に関するお問い合わせは

**FineMolds**

有限会社ファインモールド

〒441-3301  
愛知県豊橋市老津町市場53-2  
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811

インターネットホームページ

<http://www.finemolds.co.jp>

Eメールアドレス:

[otemami@finemolds.co.jp](mailto:otemami@finemolds.co.jp)

© 2015 FineMolds MADE IN JAPAN

FineMolds

◆ 部品請求カード

Use Only in Japan

No. FM44 150t超重戦車[オイ]

A	¥1000
B	¥1000
C (1枚)	¥1200
デカル	¥500
組立説明書	¥400

# 塗装とマーキング

## Painting & Marking

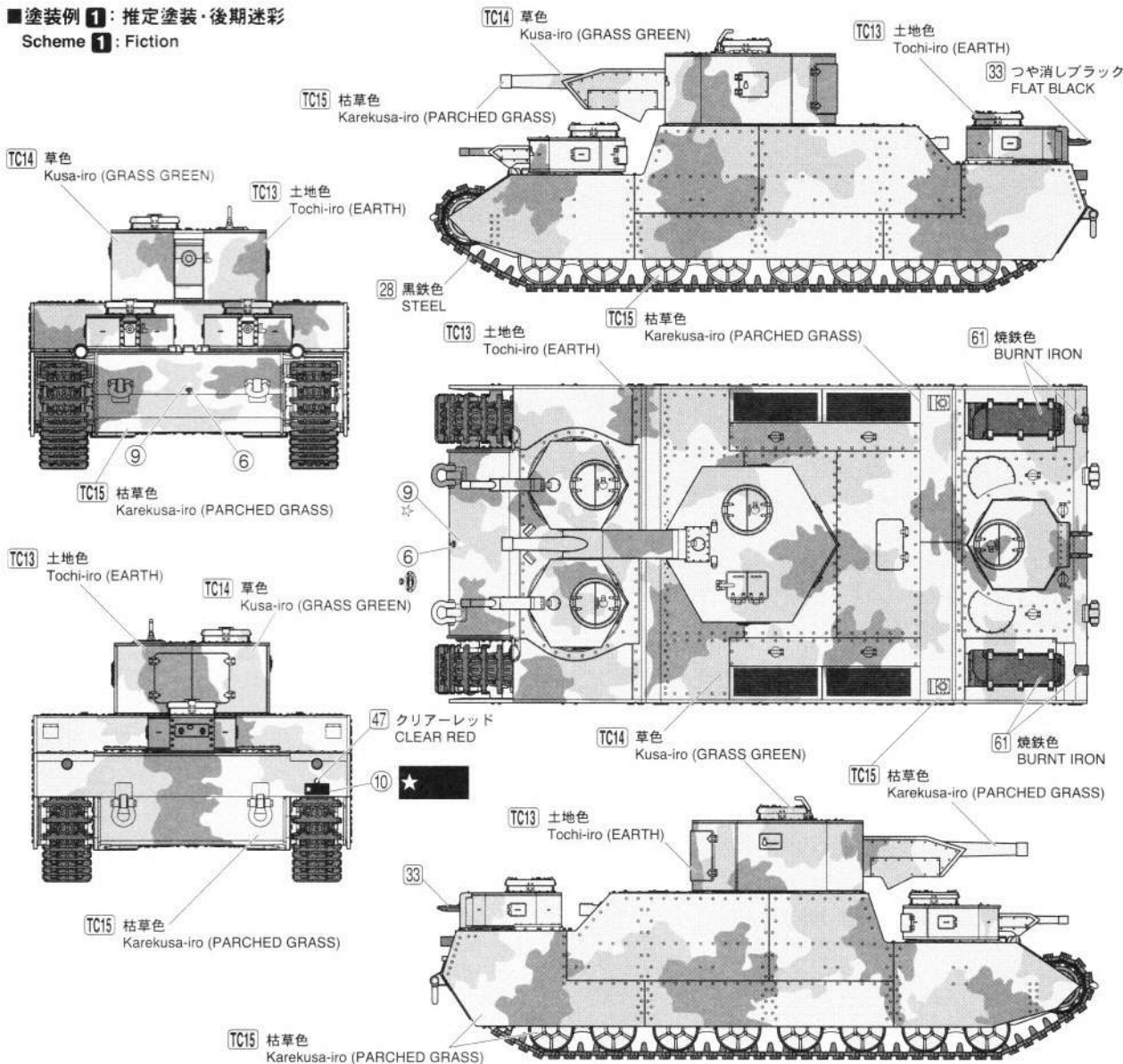
車体迷彩色は GSI クレオス製 Mr. カラー特色セット「CS662 日本陸軍戦車色 前期迷彩色カラーセット」と「CS663 日本陸軍戦車色 後期迷彩色カラーセット」、及び GSI クレオス Mr. カラーの各色で指示されています。GSI クレオス Mr. カラーの色番号を□内の数字で、続けて色名を表記しています。○で囲まれた数字は付属デカール(水転写シール)の番号です。水性ホビーカラーやタミヤカラーをご使用の場合は、下記のカラーナンバー対応表を参考にしてください。

※細部の塗装は組立図中の説明を参考にしてください。表記の無いデカールは使用しません。

Boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers. Circled numbers refer to decal numbers. Decals not showing a its number are not for use.

### ■塗装例 1: 推定塗装・後期迷彩

#### Scheme 1: Fiction



## カラーナンバー対応表 ※近似色での表示です Color Reference

GSIクレオス・Mr.カラー(□数字)	GSIクレオス・水性カラー	タミヤカラー	ENGLISH
1 ホワイト(白)	H1 ホワイト(白)	X2 ホワイト	WHITE
4 イエロー(黄)	H4 イエロー(黄)	X8 レモンイエロー	YELLOW
8 シルバー(銀)	H8 シルバー(銀)	X11 クロームシルバー	SILVER
28 黒鉄色	H18 黒鉄色	X10 ガンメタル	STEEL
30 フラットベース	H40 つや消し剤	X21 フラットベース	FLAT BASE
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	FLAT BLACK
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	X27 クリアーレッド	CLEAR RED
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	XF7+XF56	BURNT IRON
TC13 土地色			EARTH
TC14 草色			GRASS GREEN
TC15 枯草色	日本陸軍戦車色 後期迷彩色(CS663)		PARCHED GRASS
TC16 緑色			GREEN
TC17 茶色	日本陸軍戦車色前期迷彩色(CS662)		BROWN

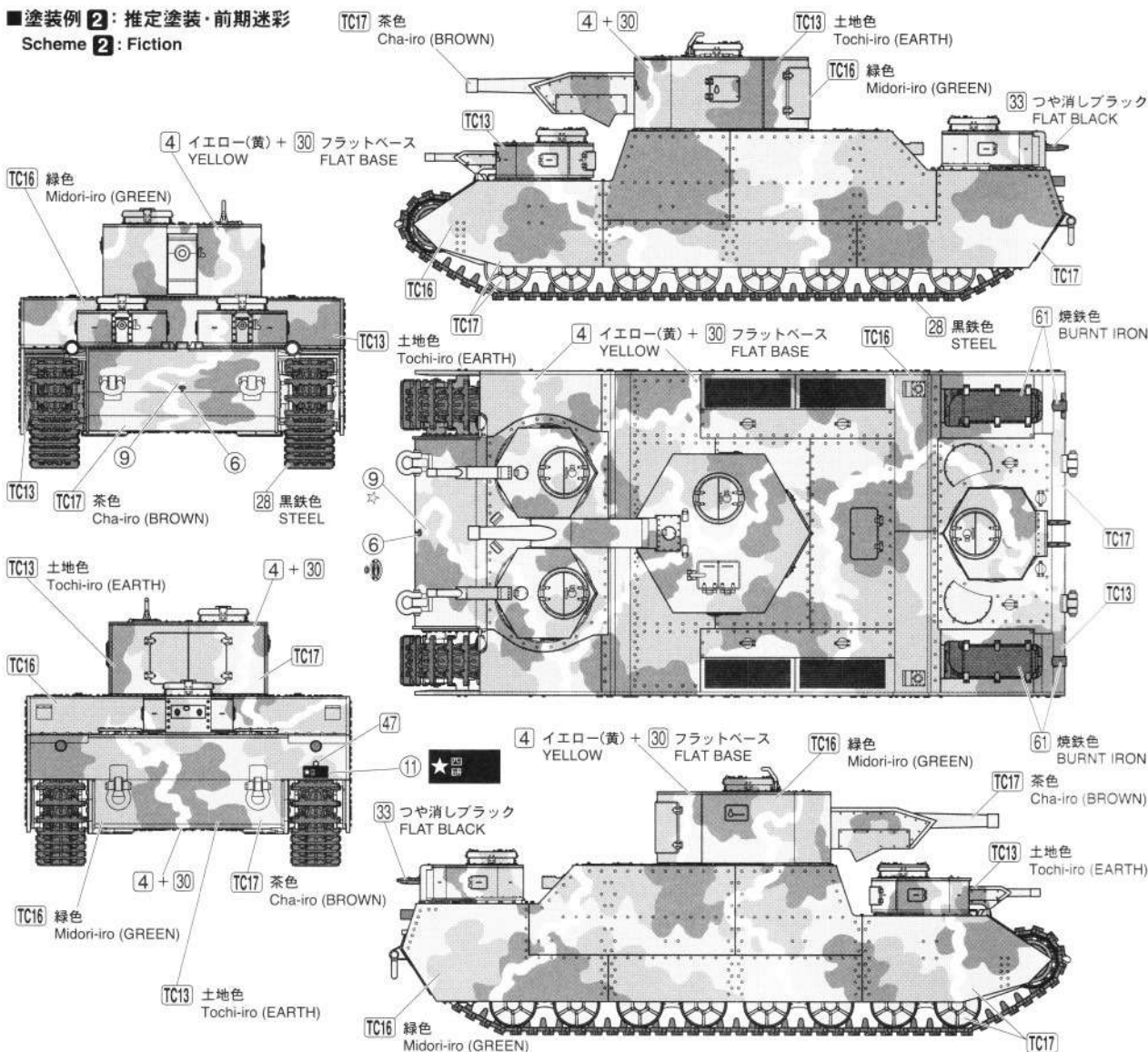
### デカールの貼り方

1. 1回に必要なマークのみを台紙と共にハサミで切り抜きます。
2. 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。
3. 貼りたい位置にマークを台紙ごと移動し、マークをすらすらしてモデルに移します。
4. 濡らした指などですらすらしながら正しい位置に動かします。
5. 位置が決まったら、柔らかい布や綿棒などで気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。(力を入れすぎるとマーク全体が移動するので注意)
6. 曲面や凹凸部にマークを密着させる際は、GSIクレオス製Mr.マークソフターを使用し、綿棒などで慎重に作業します。貼ったマークは乾いて固着するまで触れないでください。(マークソフター本体の取扱説明も参照ください)

### Decal Application:

1. Cut off each decal mark from the sheet. 2. Dip the mark into lukewarm water for about 15 seconds. 3. Place the mark in position, and slide it off the base paper and onto the model. 4. Move decal into position by wetting the decal with finger. 5. To push out excess water and air bubbles under mark, Press the decal gently with a soft cloth or cotton swab sticks. 6. Use a hot steaming towel or decal softener to mold decal over sculpted or nonflat surface. 7. Do not touch the decal until it has become dry and firmly attached to model.

■塗装例 2: 推定塗装・前期迷彩  
Scheme 2: Fiction

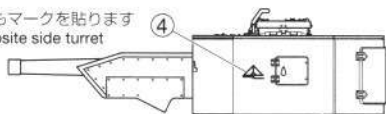


■塗装例 3: 架空マーキング・戦車第9連隊  
Scheme 3: 9th Tank Regiment, Fiction



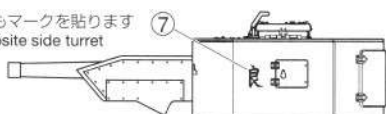
■塗装例 5: 架空マーキング・戦車第34連隊  
Scheme 5: 34th Tank Regiment, Fiction

※砲塔反対側にもマークを貼ります  
Apply mark opposite side turret



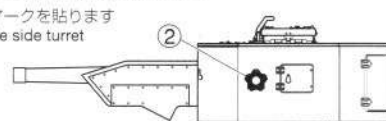
■塗装例 7: 架空マーキング・戦車第1連隊  
Scheme 7: 1st Tank Regiment, Fiction

※砲塔反対側にもマークを貼ります  
Apply mark opposite side turret



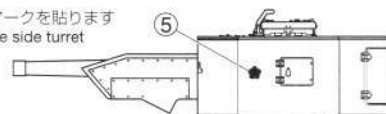
■塗装例 4: 架空マーキング・戦車第35連隊  
Scheme 4: 35th Tank Regiment, Fiction

※砲塔反対側にもマークを貼ります  
Apply mark opposite side turret



■塗装例 6: 架空マーキング・戦車第7連隊  
Scheme 6: 7th Tank Regiment, Fiction

※砲塔反対側にもマークを貼ります  
Apply mark opposite side turret



■塗装例 8: 架空マーキング  
Scheme 8: Fiction

※砲塔反対側にもマークを貼ります  
Apply mark opposite side turret

